事業のタネシート

活動地域・団体名：一般財団法人 箱根町観光協会

事業名称１：SDGs Show Room		
あらすじ		
環境先進観光地箱根として、環境問題を中心としたSDGsに積極的に取り組むことで、年間2,000万人の観光客に最先端のSDGsの取組を体験し、帰宅後その体験を実生活で実践することで、SDGsに寄与する		
ストーリー		
箱根に訪れた観光客が至るところでSDGsに資する最先端の取組を体験する。（駅に降りると細かな分別を促すゴミ箱が設置、駅の外にでるとEV車及び水素バスが運行。宿泊及び飲食施設ではフードロスを意識したメニューや間伐材を利用した割箸利用））この体験を元に帰宅後自らの生活を振り返るきっかけとなる。また、この取り組みの体験者として各地からの視察ツアーや教育旅行を受け入れ、新たなコンテンツとして活用する。さらに、観光客に一定程度経済的に負担してもらうスキームを作ることで、サステナブルな箱根町の全体スキームを作り、町の財政赤字の削減につなげていく。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	箱根を訪れる数多くの観光客が環境(SDGs)における最先端の取組みに触れることで、帰宅後自らの生活を振り返るきっかけとなるような観光地となる。	ステークホルダーの多さによる合意形成の難しさ。 事業者間による温度差 現時点（総論）では方向に大きな差は無いが、具体を詰めていく中（各論）で考えの不一致が発生する可能性あり。
②課題	ステークホルダーの多さ、SDGsに対する温度差による合意形成の難しさ。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	環境と観光を両立させることで持続可能な観光地となるため	
④地域資源	豊富な観光資源、観光業がメイン産業である特性、 合意形成の土壌の存在（箱根DMO）	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	環境先進観光地箱根としてのブランド確立による観光消費額の拡大 観光客からの一部費用徴収によるスキームづくり	
⑥担い手（Who）	事業者・箱根町・住民・箱根DMO	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	ブランド確立⇒お客様増⇒お客様からの徴収額増 ⇒環境保全・住みやすい箱根へ投資可能⇒自然資源の保全と活用	大手企業による先行実施 町（行政）の基本計画との連携及び、事業開始時の補助金
⑧事業で生じる成果	観光客増が住民サービスの拡大・環境保全につながる 住民・町民・事業者が一体となった施策	